

【研究ノート】

コント全集 〔上〕

増 田 辰 良

研究ノート

コント全集 [上]

増田辰良

目次

プロローグ
コント集 [上]

プロローグ

私がコントを書く理由。それは演劇、特に喜劇へとつながる言葉の妙味を探りたいからです。

柄本明(2019)が「……演劇ってコントなんですよね。……コントという名前だけでも、演劇、芝居。違いはないんです。……なにかこう非常に、ようするに人生を凝縮したものがね。それを長くしたものが演劇。だからチェーホフの書いたものも、やっぱりコントですよね。」(……は筆者略)

と言うように、コントと演劇は芝居という点において違いはありません。

劇場やTVのお笑い番組でコントを観ていると、コントとはある種の芝居であって飛んだり跳ねたり相手を張り倒したり、とかく動作にだけ注目しがちです。が、井上ひさし(2014)はコントを次のように定義づけています。

「コントは実は「見る」芝居と言うよりも、より多く「聴く」芝居であって、言い換えれば「言葉、ことば、コトバ」の芝居だと思われます。」(19頁)

なので、観る側にコントをおもしろいと感じさせるのは、プロットはもとより演者の台詞術に依るところが大きいかもしれません。

じゃあ、おもしろい喜劇を書きたかったら、どうすればいいのか？
井上ひさし(2020)は「まずコントをたくさん書くことを勧め」(122頁)ています。

これに倣って、私も人生の詰まったコントをたくさん書いて、そこで使われる言葉の妙味を探ることにします。

では、なぜ冒頭にこんなことを書くのか。他人と違うところに興味をもって、感心するってことがなきゃ、この人生つままないでしょ。世の中が言葉で構成されている限り、その言葉に疑問を抱かないような人間が書く文章なんて信用できません。すべて言葉が出発点になっているじゃないですか。

キーワード…コント、喜(悲)劇、笑い、ユーモア

参考文献

- 井上ひさし(2014)『笑劇全集 完全版』河出書房新社。
 井上ひさし(2020)『芝居とその周辺』岩波書店。
 柄本明(2019)『文化文芸欄 語る ―人生の贈りもの―』⑫『朝日新聞』9月27日。
 長田弘(2020)『最初の質問』講談社。

コント集 [上]

羨マシー

― 舞台。公園に1本の木とベンチがある。ベンチに男の人形が横たわっている。そこへ新米の警察官Aと先輩警察官Bが巡回してくる。警察官Aが人形に気づく。

- 警 A 先輩！ ベンチに寝ている人がいますよ。
 警 B (木の下で、手帳に何かを書くふりをして) 君。行って、自分で職務質問してきなさい。
 警 A はい！(敬礼して、ベンチへ近づき)初めての職務質問だあ。緊張するなあ。もしもし、こんなところで寝てちゃいけませんよ。寝るならご自宅で寝てください。ベンチは公園を利用する人、みんなのものですから。(人形を揺り起こそうとする。が、動かない)先輩！ この人、動きませんねえ。
 警 B (手帳に目をやったまま) どうせ、酔っ払いだろ。蹴飛ばしてみる！

(11)

- 警 A いいんですかあ。(蹴飛ばす)動かないですねえ。(平然と)死んでんじゃないですかあ？
 警 B (手帳に目をやったまま) じゃあ、頼つべたを掴ってやれ！
 警 A いいんですかあ。善良な市民を掴って。(思いっきり掴る)動きませんよー。きつと死んでるんですよ。人形みたいですよー。
 警 B (手帳をポケットへ仕舞いながら、ベンチへ近づき)どれ。わたしに任せなさい。(蹴りを入れる。両手で両頬を掴る。平然と)うん。これは完璧に死んでるね。
 警 A 先輩！ 「死んでるね」じゃないでしょ。事件ですよー。これは。
 警 B (威張る声で) 事件かどうか、君！ さっそく、調べなさい。君1人で調べるんだ。これは実施訓練にもなる。
 警 A (敬礼して) はっはい！ ありがとうございます。(人形のあちこちを手で触り)外傷はないですね。毒をもらいましたかねえ？
 警 B (手帳にメモをとりながら) もっと、よく調べるんだ！ 初動捜査が大切だぞ！ よく覚えておきなさい。
 警 A はい！(敬礼して、遺体のサンダルの右足の指に目をやる)はりはり。先輩！ 遺体は足の親指の爪に水虫を飼っていたようですねえー。
 警 B (ずつこける)
 警 A これは市販薬では完治しませんよー。(何かを見つけたという声で)薬指と小指の間にも水虫がいます。プチプチって赤くなつたままですよ。先輩！ この遺体は水虫菌に負て命を落とすたようです。
 警 B (警Aに近づき、その側頭を張る) 君はまだ勉強が足りん！
 警 A (張られた頭に手をやり) そんなことないですよ。私も親指の爪で水虫菌を育ててましたから。でも、専門の医者へ通って完

治しましたよ。

警 B (ずっこける)

警 A 先輩！ 水虫のあの痒痒攻撃を知らないから、そんな暢気な顔をしていられるのですよ。あの痒さは死んでもいいと思わせるほどの威力がありますから。

警 B (呆れて) じゃあ、君は、死因は水虫菌による毒殺だと断定するんだな？

警 A (敬礼して) はい！ まちがいないです。

警 B 持ち物を、詳しく調べなさい。

警 A (敬礼して) はい！(人形の頭の下に敷かれたバッグを抜き取り、内を覗く) あゝあ。アンパンが1個入ってる。

警 B (不思議そうに) どうした？

警 A (嬉しそうに) これ、私が大好きなアンパンです。(腹を押さえる) 腹、減ってるから、もらって食べちゃおう。死人に口無しって言いますし。

警 B おゝい！ 君、君！ なぜ、本官にも一口くれないの？ こういう場合は先輩が3分の2を食べ、後輩は残りを食べるルールになっっているんだぞ。(警Aを睨む)

警 A ええゝっ！ 誰が作ったルールですかあ。警察学校では習わなかったですけどお。

警 B (泣きべそをかいて) 本官が作ったんだよ。

警 A (うな垂れて) 先輩。すみません。(残った小片を差し出す)

警 B もういい。本官はいらない。次からは山分けするよう……、よく、覚えておきなさい。

警 A (敬礼して) はい！ 了解しましたあ。

— 照明が落ち、舞台は暗くなる。

警 A 先輩。暗くなってきましたね。早くしないと、雨が降ってきた。うです。

警 B そうだな。生暖かい風も吹いてきた。

— 木の陰からドロドロドロ、と口真似をしながら白装束の男が出てくる。幽霊の仕草をする。

幽霊 裏飯屋。

— 警Aと警Bは顎や頭に手おいて考え事をしながら、人形の廻りをウロウロしている。

幽霊 (警Aと警Bに近づき) 裏飯屋、裏飯屋、裏飯屋。

— 警Aと警Bは気づかないふりをする。

幽霊 裏飯屋、裏飯屋。

警 A (男に気づき) あなた、そのあなた。公園の裏は墓地ですよ。飯屋は正面入口の横断歩道を渡った右側にありますよ。あそこのラーメン定食はいつ食べても美味しい。わたしの一押しです。ガイドブックにも載ってますから。ぜひ、行って食べてみてください。

— ください。

幽霊 (怒ったように) 裏飯屋！

警 B (気づき) うん。本官のお薦めはニラレバ定食、天下一品の味

ですぞ。日に3度食べても飽きない美味さですよ。ぜひ、どうぞ。

幽霊 (さらに怒気を込めて) 裏飯屋〜！ 裏飯屋〜！

警 A だから、裏は墓地で、飯屋は正面入口の横断歩道を渡った右側にありますよ。あなたもしつこいですねえ。まるで、誰かに取りついた幽霊。(2秒あけて) 霊みたいですねえ。

幽霊 (にっこり笑い) はい。私は幽霊です。はじめまして。

警 A と警 B (ぎょつきょつと驚き) ええーっ。あなた、幽霊さんなんだあ。一度、お逢いしてみたかったです。

幽霊 (怖がらないので、ずっこける) 幽霊の裏飯屋ー！

警 A だから、裏は飯屋じゃないですよー。

警 B A君。幽霊さんはお腹が空いているのかもしれないよー。

警 A ああ、そうか。それで飯屋！ 飯屋！つて……。ねえ、腹減ってるの？ ねえ。

幽霊 (腹を押さえ) はっ、はっ。確かに腹は減っていますが。

警 A な〜んだあ。早く出て来てくれてれば、……あげたのに……。

警 B んんっ。で、幽霊さん。あなた、なぜ死んだの？

幽霊 その質問に答える前に一つ確認させてください。

警 B 何を？

幽霊 私の通称は幽霊です。なので、幽で切つてから霊と呼ばないでください。幽で一度切ると、人間時代の氏名のように聞こえますから。幽霊と続けて呼んでください。お願いします。

警 A (不思議そうに) そうですかねえ？ そうなんだあ。

幽霊 女優に優香や波瑠って方がいますよね。

警 A はい。いますね。

幽霊 あの方たちを呼ぶとき、優・(2秒おいて) 香とか波・(2

秒おいて) 瑠なんて呼ばないでしょ。

警 B ふんふん。

幽霊 続けて、優香さん、波瑠さんって呼ぶでしょ。

警 A なるほどねえ。じゃあ、お訊きしますが、民進党代表だった蓮・(2秒おいて) 舩さんはどうなるのですかあ。私の友人の林・(2秒おいて) 徹は？

幽霊 (呆れたように) まうあ。いいでしょ。あの世とこの世とは違いますから。でも本人のこの私が幽霊と続けて呼んでくれ、と言ってるのだから続けてください。

警 B そうでしたかあ。本官もあなたの姓は「ゆう・(3秒あけて)」で名は「れい」だとばかり思っていました。これは失礼いたしました。(敬礼する)

警 A で、そのうれしいさんは、なぜ成仏できないの？

幽霊 はい。順調に三途の川の岸まで辿り着いたのですが、アンパンを食べ忘れたことを思い出しまして。

警 A ええーっ？ (人形を指さし) まさかあ、この死んでいるのはあなたなの？

幽霊 はい。恥ずかしながら、私です。夜露に濡れて、ふやけてしまつて、なんと哀れな。(人形にすがり付き) おい、この俺め。(泣) クッククック。

警 B で死因は何ですかあ？

警 A (確信のある声で) 水虫菌ですよ。痒痒攻撃に負けたのでしょ。

幽霊 (低い声で) いいえ。そんな新聞の特ダネになる格好いい死に方ではありません。

警 A と警 B (ずっこける)

警 B じゃあ、何ですか？ (手帳にメモを取る準備をする)

幽霊 (低い声で) 昨夜の大食選手権で大量の料理を食べて、強烈な胸焼けを起こし、それを鎮めようとして、ここに寝転がって……、息が苦しくなって……、お釈迦様と閻魔様が現れて……。

警 A あくあ。血糖値と血圧が一気に上がって、心筋梗塞、脳梗塞、胃痙攣、腸捻転を起こし、プラス水虫の痒痒攻撃を受けたのである。すね。

幽霊 はい。痒痒攻撃以外はきつとそんな理由だと思います。この際、そうしておきましょう。

警 B でも死んでも食べ忘れたアンパンを思い出して、還ってくるなんて、すごい食意地くいじですね。その根性に座布団3枚!

幽霊 (ずっこけながら) 実は、大食選手権での最後の料理がアンパン1個でした。私はそれを食べる前にタイムオーバーしてしまったのです。それで準優勝でした。(泣)クッククック。そのうえ、食事代金9000円を支払いました。優勝してれば、払わずに済んだものを……。恨めしいー限りです。(泣)クッククック。

警 B まあまあ、そう泣かないで、終わったことはしょうがないですよ。で、大食選手権の料理はどんなものだったのですか?

幽霊 はい。30分間でラーメン定食10人分とニラレバ定食15人分+アンパン1個を完食することでした。

警 A と警 B (幽霊の仕草をして、声を合わせ) 羨マシィー!

しゃべりたい園児

― 舞台。派出所に机が2つある。巡査が2人、暇そうにしている。

幼稚園児の服装をした男が窓から内を覗いている。

巡査 A (鼻糞をほじくりながら) 暇ですねえ。暇だ暇だ暇だあ、暇だ暇だあ。

巡査 B (机の上に両脚を投げ出して) ほんと、事件が起こらんねえ。これじゃあ、警察官になった意味がない。(拳銃を撫でながら) この拳銃はじまを早くぶっまなしてみたいよなあ。(背伸びをしながら) あくあ、眠くなってきたあ。平和、平和、世界は平和、私のお頭つむも平和。平和ボケだあ。

― 幼稚園児が入ってくる。

園児 おまわりさん! ぼくのお話、聞いてくれる?

巡査 A (鼻糞を上着にこすり付けて、園児に近づき) あくあ。坊や、どうしたのかい? 迷子になっちゃったのかな?

園児 そうじゃないよ。ぼくのお父さんねえ。ある人に銀行強盗させたんだよ。

巡査 B (慌てて、椅子から転げ落ちる) 本当かい? 坊や?(立ち上がり窓の外に目をやって) そのわりには通りは静かだな。

巡査 A (巡査 B に小声で) 子どもは嘘をつかないっていうじゃないですか。

巡査 B そうだな。私も子どものころ、こう見えても正直だった。んんつ。よし、もう少し聞いてみよう。坊や、それからどうなったのかな?

園児 うん。お父さんねえ、人殺しもさせたよ。

巡査 B (巡査 A を見て) よし、逮捕に行くぞ! これを挙げれば、

3階級特進だあー。坊や、よく教えてくれたね。ありがと。

(園児の頭を撫でて入口のドアへ進む)

(大きな声で) まだ、あるよー。

園児 (出て行こうとする巡査Bの腕を引っ張って) まだ、あるそうですね。

巡査B (引き返す) うん、うん。

園児 お父さん。きれいな女の人を無理やり裸にさせたんだよ。

巡査B よくもそんな……、きれいな女を……もう羨ましい!

園児 まだ、あるよ。奥さん以外の女の人に赤ちゃんを産ませたこともあるんだ。それで、奥さんと喧嘩になって、奥さんを殴らせたんだよ。

巡査B (巡査Aへ) DVだ。女性の敵だ! 許せん! 早く、奥さんを保護しよう。

園児 おまわりさんの拳銃を盗ませたこともある。

巡査A (腰の拳銃を押さえ、拳銃強奪事件を頭に浮かべ、ブルブルと震える) 凶悪犯だ! 怖い!

巡査B (巡査Aの側頭を張る) 警察官が何を怖がってるんだ。いよいよこの拳銃を使うチャンスがきた。(でも怖くて、猫なで声で) 坊やのお父さんは相当な悪人だね。逮捕されると、きつと死刑にされちゃうよ。できることなら自主するよ……。

巡査A (巡査Bの口を手で塞ぎ、小声で) そんなことしたら、手柄になりませんよ。坊や、こんなお話をおじさんたちにしても大丈夫かい? お父さんからイジメや虐待を受けるんじゃないかい?

園児 そんなことないよ。お父さんは偉いし、優しいよー。絵本や

おもちゃをいっぱい買ってくれるんだ。

巡査A (泣) クッククック。銀行強盗して稼いだ金で、絵本やおもちゃを……。

巡査B (園児を諭すよう) 偉くても、優しくても、人の物を盗んだり、人を殺すと、逮捕されちゃうんだよ。おまけに美人を裸にするなんて、なんて羨ましいことを……おじさんも……。だから、だからね。(涙声で) 坊やのお父さんは悪い人なんだよ。

(泣) クッククック。

園児 (平然と) そんなことないよー。茶化^{ちやか}した賞だって、もらったんだから。

巡査A (巡査Bに目配せして) 坊や、お父さんのお仕事って何か、知ってる?

園児 うん。知ってるよ!

巡査A 何かな?

園児 (大きな声で) 小説家だよー。

巡査Aと巡査B (ずつこける。叱る口調で) 坊や、いいかい、おじさんたちは忙しいからね。からかっちゃいけないよ。

園児 だって、おまわりさんたち、暇そうにしてたから……。ぼく、つい……。 (泣) ウエーン、ウエーン。

巡査Aと巡査B ごめん、ごめんねえ。(巡査Bが園児を抱き寄せる) おじさんたちの言い方が悪かったよ。

園児 (元氣よく) 平和っていいねえー。

巡査Aと巡査B (大きくずつこける)

胃カメラ

— 舞台。病院の診察室で医者が丸椅子に座っている。失言、政治資金の不正経理、愛人問題などで、国会で責任を追及されている大臣が体調不良で病院へ来た。

看護師 (怪訝そうな目をして) どうされましたか？

大臣 (俯いたまま、右手で腹を押さえ) どうも、このところ胃の具合が良くなって……。

看護師 (ニツと笑って) 胃ですね。はい、承知しました。

— 看護師は大臣を診察室へ案内し、医者 of 横に立つ。

医者 やあ。大臣。どうされましたかあ？

大臣 先生。胃の具合が良くありません。

医者 そうですかあ。胃はともデリケートです。精神的なストレスは胃にきますから。あなたは時の人、疑惑の総合商社と呼ばれていますからねえ。(笑) フッフッフッ。

大臣 (怒ったような目をして) このところ余計なことまで探られていますから。

医者 では、念のため、カメラで検査しましょう。(笑) フッフッフッ。(オロオロしながら) カメラですか!? カメラは嫌いです。

医者 真実を写しますから。

テレビのカメラじゃなくて、胃カメラですよ。鼻や口から挿入する小型のカメラです。

大臣 あ。あ。そうですかあ。でも、痛くもない腹を探られそう……。

医者 (疑わしいという声で) この時代、胃の調子が悪いといえば、必ずカメラで検査していますよ。バリウムを飲むよりも詳しく検査できますから。

大臣 (オロオロする) カメラは飲んだことないです。いつも追いかけるばかりで。飲むのは、大変でしょ。

医者 いいえ。簡単です。痛くも痒くありませんよ。10分ほどで終わりますから。フッフッフッ。

大臣 そうですか。じゃあ、やってみましょうかね。

医者 (不敵な笑みを浮かべ) なかなか飲み込みが早いですな。カメラもそうであってほしいですなあ。それでは、明日にしましょう。後は看護師から説明を聞いてください。

看護師 (薄笑いしながら、強い口調で) 明日の朝、絶対に、10時に来てください。今日の夜は7時以降、食事を摂らないでくださいよお。

大臣 (懇願するように) 寝酒は？

看護師 (睨みつけ、叱る口調で) 駄目です。

— 翌日。大臣は青白い顔をして、病院へ来た。咽喉の麻酔をして、診察台に横たわり、検査を待つ。モニターがある。

医者 (細長いチューブのような物をクルクル回しながら、診察室へ入ってくる) それでは、これから検査を始めます。口からこのカメラを挿入していきますが、涎は垂よだれらしてください。不正な献金を受け取るように、ダラダラと。フッフッ

フツ。検査中は、大きく息をし続けてくださいよお。また、カメラが胃に入って出てくるまで、このモニターをしつかり見ててくださいね。

— 医者はカメラを口へ挿入する動作をする。カメラが咽喉を通るとき、大臣はゲボゲボとこずく。看護師が介添えをする。

医者

(カメラの先端を動かしながら、なじるように声をかける) 健康な人の胃はきれいな薄紅色をしていますが、大臣の胃はどこもかしこもドス黒いですなあ。(モニターに映像が映る) おや、入口には愛人がいますね。あらら、ここは女性秘書へのセクハラ、パワハラですね。おお。ここには贈収賄疑惑も映ってますよ。まだまだ疑惑の黒点があつちこつちに残ってますねえ。んん。胃の出口辺りは黒すぎてカメラに写りませんよ。これで、よく持ち堪えてきましたね。相当な悪ですなあ。

— 大臣はゲボゲボとこずき、カメラは胃から抜き出される。

医者

はい。これで終了です。

大臣

(体を起こして、ティッシュで涎を拭く動作をして) どうでしょうか。悪いところがありますか？

医者

(威張つて) おおアリです。まるでヒアリのようです。まだ、隠している疑惑が3つ残っていますねえ。放っておくと、さらに拗れて、ついには胃を開いて切除することになります。胃には隠し事が一番良くないです。はい。

— 大臣、医者側の頭をポカンと一発、張る。

大臣

(一転、頭をペコペコ下げて懇願する) どうか、野党には見せないでください。追求が別の件にも及びそうで……。総理にも内緒にしておいてください。更迭されてしまいます。(嘘泣きをする) クッククック。(一転、顔を突き出し、強面の声で) 先生。もし必要なら、こっそり病院へ寄付を差し上げてもいいですよ。裏金というやつです。100万ですか。いや、200万。(笑) ヘッヘッヘッ。

— 医者は、天井を見上げたまま聞いている。

医者

(何かを思い出したように) この際、MRIで身体全体の断層写真を撮って、検査しますかあ。すべてが明らかになりますよ。20分もあれば真実を明らかにできます。

大臣

(目を見開いて、拜むように手を合わせ) それだけは勘弁してくれ! 次の予算委員会ですべて白状するから。(顔を下げ右腕を目に当て、泣く) クッククック。

看護師

(横に立ち) アハッハッハッ。

情報の誤操作

— 登場人物。鬼ヶ島の將軍様、その参謀。国際会議の加盟国(犬、

猿、キジと桃島)代表。桃島国の総理大臣。桃島国の

国営TVアナウンサー(表さんと裏さん)。

―あれからとてつもなく時が流れた。鬼ヶ島の将軍様は祖先のあだ討ちをすべく、ミサイル、嗅屁器くへいきの開発に専念してきた。狙うのは唯一つ桃島国である。祖先をイジメた桃太郎の属国である。今朝も東方をめがけて駄作12号という名の弾道ミサイルの飛行実験を試みた。その飛行距離は？

1話 鬼ヶ島にて。TVのモニターの前。

将軍 ミサイルはどこまで飛んだ。

参謀 (敬礼) はっ。将軍様。そろそろ、隣国の国際TVニュースが始まる時刻です。もうしばらく、お待ちください。

将軍 早く情報を入力しろ！ わたしはこの国で一番偉いんだぞ。

桃島国の国際TVニュース。

アナウンサー (深刻な声で) ただ今、臨時ニュースが入りました。

最後まで、よくお聞きください。さきほど、鬼ヶ島からわが国へ向けて何か飛翔体が発射されました。袖袋そでも岬さきの上空を通過し、陸地の東端から3mほどの浅瀬に落下しました。以上、担当、裏うらがお伝えしました。

参謀 (敬礼。TVのモニターを見ながら) はっはあ。将軍様。喜んでください。桃島国の国際ニュースによりますと駄作12号は「♪袖袋の春はあゝあ、何もない春です♪」の上空を通過し、桃島国の領土を3mほど越えて、海に落下したようです。3mは誤差のうちでしょう。

将軍 そうか。飛行距離にして2500kmだな。

参謀 (敬礼) はっ。実験は大成功です！

将軍 よっしゃあ。よくやった！ 褒美に荷役牛の脂身こけりと古級車こけりオンボローをやろう。

将軍様と参謀は涙を流し抱き合つて喜ぶ。

参謀 早速、次の駄作13号の先端に嗅屁器を搭載しましょう。

将軍 よし。これで、あだ討ちができる。(泣)クッククック。わが国は長年にわたり、桃島国のみならず世界中から敵視されてきた。ようやく、越年の恨みをはらす準備ができた。

2話 国際会議場にて。「世界が平々凡々であることを望む会議」が緊急開催された。

加盟犬国

ここ数年間というもの鬼ヶ島はこの会議での制裁決議を無視し、軍備の増強に余念がありません。また、今朝もミサイルを発射するという暴挙に出ました。もう我慢も限界です。一線を過ぎましょう。平々凡々軍をもって、あの太ちよバカ殿を懲らしめてやりましょう。

加盟猿国

賛成！ これ以上ミサイルを発射されると、海はミサイルの残骸で埋め立てられてしまいます。東アジアと北アメリカが陸続きになりそうです。魚貝類は海底に防空壕を掘っているし、タコは真っ赤になって怒っています。

桃島国代表

(笑) イカにも。しかし、軍の投入は性急すぎます。バカ殿は、あの体型ではすでに生活習慣病を患っているこ

とでしよう。1日、8千から1万歩のウーキングが必要でしょう。きつと短命です。外からの武力ではなく、身体の中から崩壊させましょう。ここは冷静に対応すべきです。

加盟キジ国

ではどうするのですか？ 銀行口座の凍結、禁輸、出稼ぎ労働者の受け入れ拒否、あらゆる手段を発動してきましたよ。もう打つボール、いや手は……ない。

桃島国代表

はい。情報作戦です。もつともつと無駄金を使わせましょう。資金を枯渇させましょう。これは極秘です。当事国であるわが国はすでに実施しております。

他の加盟国

……？

3話

鬼ヶ島にて。長テーブルの上には酒とご馳走が並んでいる。將軍様を中心に酒宴。

参謀

(酔っ払った勢いで) 將軍様あゝ。いつでもミサイルに嗅屁器を搭載できます。桃島国へ向けて発射できる準備は整いましたあゝ。この発射命令書にサインさえしていただければ。ゲヴォ。ゲヴォ、ウイー。

將軍

(呂律の回らない口調で) よっちゃあゝよっちゃあゝ。サイン、大大好き！(笑) ハッハッハッ。ウイー。

参謀。書類をテーブルへ置き、よろけながらトイレへ立つ。將軍様の1人息子。手に書類を持って入っている。

息子

おとうちゃん。ごきげんだね。

將軍

(でれっと) おお。わが王国4代目の後継者じゃないか。ここへは来ちゃいけないよ。ウイ、ウイー。

息子

あのね。土曜日ね、小学校の参観日なんだけとお、かあちゃんにはエステの予約が入っていて来れないって。(涙声) でね、でね、僕、おとうちゃんに来てほしくて。(テーブルの書類を手に取る) よおし。泣かなくてもいいぞ。おとうちゃんが行ってやろう。ウイー、ウイー。

將軍

やったあ。ありがとう。(2つの書類を見比べながら) じゃあ、ここへ(別の書類) サインしてくれる。ここだよ。明日、先生に提出するから。

息子

息子。もう一通の書類をテーブルへ置く。ごちそうのイチゴを両手でパクパクと口へ運ぶ。

將軍

(確認もせず、サインする) よし。これでいいちやろう。ウイー、ゲヴォ。(書類を横へ置く)

息子

(口をもごもごさせ) ありがとう。(サインのない書類を手にとる)

將軍

さあ、もうおやすみだあ。おちっこをしてから寝なさいよ。歯磨きもするんだじょ。

息子

は〜い。おやすみなさ〜い。

將軍

(でれでれっと) おやちゆみ。(低い躰を立てて寝込む)

参謀

(震えながら、敬礼) はっ。すぐに準備いたします。

5、4、3、2、1、発射！ズドーン。しばらくしてポチャンと音がする。

参謀 將軍様。起きてください。嗅屁器を搭載したミサイル駄作13号を発射しました。

將軍 (寝ぼけた声で) ううーん。僕ちゃん、もう飲めまぢえんよ。ウエーソ。

参謀 (耳元で) 將軍様！(起きないので、頭を一発張る)

將軍 痛い。あゝあゝあ。叩かれたように痛い。

参謀 (ちやかして) 痛いの痛いの飛んでけー、で駄作13号を発射しました。

將軍 (まだ、寝ぼけたまま) そっかあ、あゝあ。では、これで桃島国も海の底に沈むってことだな。(笑と欠伸) はゝはゝはゝあゝあ。参謀 (敬礼) はっ。時間の問題かと。

4 話 桃島国にて。国内TVニュース。

アナウンサー 臨時ニュースです。総理の会見を最後までよくお聞きください。

「国民の皆様。総理の悪感倍あつかんベです。つい先ほど鬼ヶ島からわが国へ向けてだと思のですが何か飛翔体が発射されたようです。これまでも同様、数秒後海面へ落ちました。計測できないほどの近距離です。きつとオリンピック出場の砲丸投げ予選にも及ばない距離でしょう。まるで屁のようで。その屁も出せばすつきりしますが。いや、屁の突つ張りもありません。かの国は、懲りもせず同様の実験を繰り返しております。まことに金の無駄使いもはなはだしいかぎり

す。いつまで堪えられるやら。あの金を教育、農業、製造業、社会インフラに投入すれば、どれだけ国民の生活が潤うことか。誠に残念至極です」

(明るい声で) 以上、担当、表おもてがお伝えしました。

鬼ヶ島にて。將軍様と参謀。国際TVニュースの画面を一心に見つめ、放送の始まるのを待っている。

清め過ぎ

— 舞台。冷蔵庫と食料庫の置かれた台所がある。夫はソファで新聞を広げている。コートを着て、首にマフラーを巻いた妻が葬儀から帰ってきて、玄関ドアの外に立っている。ピンポン、ピンポン。

夫 (インターホンの画面を覗きながら) はい。

妻 ただいま！ あなた、清めの塩をまいてくれない？

夫 (軽い声で) おお。お帰り。OK！

— 塩を探しに台所へ入る。が、どこにあるのか分からない。戻って、インターホンへ問いかける。

夫 おい。塩。どこにある？

妻 冷蔵庫の2段目に卓上塩が置いてあるから。

— 夫は「卓上塩、卓上塩」と口にしながら、冷蔵庫を開け、小瓶を見つめ、玄関へ行く。

夫 (玄関ドアを開け) 葬儀、もう終わったのか。早かったな。(瓶の蓋を開け) さあ、かけるぞ。

妻 (顔色がさっと変る) それ、味の素じゃない。(寒くて両手をこすり合わせながら) 何、やってんのよー。

— 夫、玄関ドアを閉め、気まずそうな顔をして戻り、冷蔵庫を開けるが、見つけれない。玄関へ来てドア越しに、

夫 おい。塩の小瓶、見つけれない。あるのか？

妻 あるわよ。じゃあ。扉の裏のポケットを見てよ。小さな小瓶だから。

夫 (難なく見つけ小瓶を手にとって、玄関ドアを開ける) あったぞ。

妻 (呆れた声と表情で) それ、一味唐辛子じゃないのよー。信じられない。もうー。

夫 (手に持つ小瓶を見て) あーあ。小瓶って言うから。塩、ないよ。

妻 あるから！ よく、見てよ！

夫 (また、冷蔵庫を開け、小瓶を見つめる) あったぞ！ (急いで玄関へ来て、ドアを開ける)

妻 (どうしようもないという声で) あなた、頭、壊れてるの！ 何イ、ボケてんのー。

夫 小瓶、塩だろ？

妻 それは胡椒よ。いいかげんにしてよー。寒いんだからー。

夫 胡椒と故障。座布団3枚だな。(笑) フッフッフッ。

妻 何イ、笑ってるの。どこを探してるのよー。

夫 (また、台所へ戻ろうとする) すまん、すまん。

妻 (玄関ドアを開け、顔だけを中に入れて夫の背中へ、ブルブル震えながら) あるはずよー。じゃあ、食料庫の中を見てみて。買い

置きしたものはあるはずだから。

夫 (いかにも簡単そうに) OKです。

妻 (顔を玄関の中に入れたまま台所へ向かって怒ったように) もう、早くしよう！ 寒いんだからー。

— 夫は食料庫を開け、前面に積んである、お菓子類、カレールーやサラシラップの箱、大小のタッパ類を足元に出し、塩という漢字の付いた袋を見つめる。

夫 おお。あつた、あつた。これだあー。確かに塩、やっと思つけたー。

— 顔に笑みを浮かべスキップをしながら喜び勇んで玄関へ戻り、ドアを開ける。

夫 (漬物用の1キログラムの塩袋を胸の前まで上げて) あつたぞ。

妻 (これなら大丈夫だあ。さあ、かけるぞ！)

妻 (目を見開いて) ひえー。それじゃあ、溶けちゃうー。そんなに穢れてない！

まちがい電話

舞台 登場人物は男、謎の電話主、刑事。

— 男がソファで深夜テレビのサスペンスドラマを観ている。リモコンで画面を操作する。

テレビ 岩山の崖下で老人の死体が発見される。残された遺書に住所が書いてあり、遺族の娘は警察から遺体確認をするため山麓まで来てくれ、という電話連絡を受ける。娘はメールでタクシーを予約する。

男 山麓って、山の何処や？(スマホのベルが鳴る)ブルーブルー。誰だ。こんな時間に、はい。

電話主 こちら△タクシーですが、ご予約先は〇〇町さんに(3×2)が6番地で、よろしかったでしょうか。
男 タクシーなんか予約してませんよ。まちがってますよ。(電話は切れる) ツーツーツ。(男も切る)

テレビ 女は現場へ直行せずにタクシーを降り、カフェに入る。そして、アイスコーヒーを注文する。

男 ブルーブルー。はい。
電話主 アイスコーヒーのお届け先は〇〇町さざん(3×3)が9番地で、よろしかったでしょうか。

男 なんや！ そんなもの注文してへん。まちがってるでー。あなた、さつきもかけてきたでしょ。タクシーにコーヒー、どんな仕事してるんですか？

電話主 この役、私しかいませんので、1人で何役もしなきゃいけません。
男 そんな事情知らんがな。(電話は切れる) ツーツーツ。謝れよな。(男も切る) 気分悪いなあ。

テレビ カフェへ男が現れ、女のテーブルへ座り、ピザを注文する。

男 ブルーブルー。またかいなあ。はい。
電話主 ご注文いただいたピザのお届け先は〇〇町さんし(3×4)が……、でよろしかったでしょうか。

男 おい！ どうした!? 3×4は12や。こんな計算もできんのかい！

電話主 正確には三枝は文枝になったでしょ。
男 おーい、おい。それは桂三枝師匠のことや。冗談やめて。ピザなんか注文してない。その前に、そっちがまちがってるんやから謝れ！(電話は切れる) ツーツーツ。(男も切る) 腹立つなあ。

テレビ 男と女は夫婦。どうやら妻の父親が病気を苦に自殺したらしい。残された遺書にそう書いてあったようだ。遺体は父親本人にまちがいないだろう、と妻はしゃべっている。じゃあ、ということでは葬儀の話が始める。

男 ブルーブルー。またかよ。今夜は、ようかかってくるなあ。
電話主 ご注文いただいた棺桶のお届け先は〇〇町さんこ(3×5)……、さんこ……。

男 また、あんたかいなあ。さんこと違うでー。
電話主 (外国人の訛りで) ワタクシハ、ガイコクジンデアリマステス。ニホンゴ、ヨクワカリマセンアルヨ。
男 何言うてるんや。さつきまで日本人やったでえ。こんなことも知らんのかい。さんごや。3×5、15や！ 小学生でも分

かるわ。しつかりせえや。お前はアホかあ？

その最後の言葉はイジメですね。いえ、店を店ともおもわない客、これは客から店へのパワハラだあー。私を侮辱しましたね。許せません。

そら、ちゃんと日本語しゃべってるやないかい。

電話主 電話主で、棺桶のサイズですが……。

男 あんたねえー。そんな物を注文する人がいるんですかあ？

電話主 アホと違いますかあ。その前に九九をしっかりと勉強せえや。

電話主 また、侮辱しましたね。ぜったいに許せません。で棺桶ですが、たまに注文があります。先日も〇〇町さんろく(3×6)

……、から注文を受けました。

男 またやー。言い方がちがうぞー。さん(3)かける(×)ろ

く(6)はさぶろくって言うんやでえ。おい。3×6、いくらや？ おい！ おいって！ これ大切やでえー。

電話主 ツーツーツー。

男 勝手に切ってもうたあ。成長せんなあ。教えたらう、思うたのに。残念やな。ああ、そうや。せっかく観ようと思うたドラマ、ぜんぜん観てへんがな。自殺か他殺か、よう分からん。

テレビ 最後の種明かし。夫が義父の遺産を目当てに、崖から突き落とした殺人事件であることが判明した。パトカーが夫婦の自宅へと急行する。エンディングテーマが流れる。

男 そうかあ。ドラマやけど、実際にありそうやなあ。俺も落とされんようにしよう。ブルーブルー。またかい。ほんま、よいかかってくるなあ。また、まちがい電話やろ。いいかげん

(一四)

にしろよな。はい！ また、あんたやろ！ タクシー、コーヒー、ピザ、棺桶。今度は何やー。

電話主 ご予約いただいたパトカーの配達先は〇〇町さんひち(3×7)……さんひち(3×7) 22番地で、よろしかったでしょうか。

男 違う、違うー。まちがってるがな。3×7は21や。3のかた

電話主 まりが7つあるんやがな。ぜんぶ足すんや！

電話主 するどいご指摘、ありがとうございます。

男 なにもするどくない。小学生でも答えられるでえ。よし、ぜんぶ教えた。3×8は24。3×9は27。やってみいー。

電話主 ……では、パトカー1台、配送いたします。

男 どこえや！ パトカーなんか、いるかー。その前に、ここ

電話主 正しい住所、知ってるんかい！
ツーツーツー。

男 また、切りよった。

——キンコン、キンコン。玄関のインターホンが鳴る。

男 誰やろ？ こんな夜中に。はい。(玄関ドアを開ける)

刑事 (私服の刑事が身分証明書をかざし) ××署の刑事です。あなたを逮捕します。

男 (慌てた口調で) なぜですか？ なにも悪いことしてませんよ。罪状はなんですか？

刑事 1つは侮辱罪です。あなたは電話主でんわのぬしさんを侮辱しましたよね。

男 ああ、あの謎の電話の主ですか。刑事さん。お言葉を返すようですが、間違い電話で迷惑を受けたのはこっちですよ。

刑事 間違ひ電話など、よくよくよくよくよくよくよくよくあること

です。(鼻で笑う)ヘッヘッ。

男 タクシー、コーヒー、ピザ、棺桶、パトカー。5回も間違えますかあ?

刑事 (語気を強めて)だから、よくよくよくよくよくよくよくよくよくあることだと言つてるでしょ。

男 一度も謝つて、もらつてません!

刑事 他人の非を責めるよりも、わが身を反省しなさい。小学校でそう教えられたはずですよ。

男 分かりました。(土下座をして、頭を下げる)謝ります。侮辱して、ごめんなさい。このとおり、ごめんなさい!

刑事 いいでしょう。許してあげます。しかし、もう1つあります。

男 えーつ。まだ、ありますか?

刑事 (笑)ヘッヘッ。さんろく(3×6)を教えてあげなかつたでしょ。不親切罪が適用されています。

男 (驚いて)ええーつ。ほんまに!。でも、刑事さんも間違つてますよ。さんかけるろくはさぶろくつて言うでしょ。さんろくじゃなくて……、小学校でそう習つたでしょ。

刑事 電話主さんはさんろくを知りたくて……、それをあなたは……。(小声で)そのとき、この住所がピンと閃きましたよ。

男 さんろくにこだわりますねえ。……山麓かあ。実はですね

え、わたしも分かりません。

刑事 ええつ? あなた、さんろくが分からないのですか!

男 はい。すみません。山麓、すぐに辞書で調べておけばよかつたあ。

刑事 (力強く)さんろくですよ!さんろく18でしょ。

男 (ずっこける)

刑事 (笑)ヘッヘッ。これで借りは返せました。許してあげますよ。

入社試験

― 面接会場。長机に、社長と人事課長が座っている。長机に向かつて応募者の座る椅子が1つとホワイトボードが用意されている。

課長 社長。今年は優秀な新卒を採用できそうですよ。わが社は超一流の会社ですし、学生からの評判もピカイチですから。(笑)

ヘッヘッヘッ。

社長 (少しのけ反つて、偉そうに)そうかい、そうかい。で、応募者は何名かな?

課長 (威勢よく)はい!1名です!

社長 (ずっこけるが、嬉しそうに)そりゃあ、楽しみだ。そろそろ始めますか。

課長 では、応募者を入室させます。(大きな声で)1番の方、お入りください。

― 牛乳瓶の底のように厚いレンズの眼鏡をかけた学生が手と足の動きを同じにしてスキップしながら入ってくる。

学生 (椅子の横に立ったまま大声で)はじめまして、駄目名大学4年、

阿玉和留蔵と申します。よろしく、お願いします。(床に着く

ほど深々と頭を下げる)

課長 どうぞ。おかけください。

学生 はい！

社長 (学生の目を見て、真剣に) 私がこの会社の社長です。えへん。

人生で一番大切なことはなんだと思いますか。

学生 はい！ たくさんご飯を食べることだと思います。

社長と課長 (ずっこける)

社長 そう、ご飯、ご飯だね……。私は、人生、どんな場面でも諦め

ずに粘り強くやり通すことだと思いますよ。(得意そうに) そうすれば道は開かれる。よく、よく、覚えておきなさい。

学生 はい！ よく、よく、覚えしました。

社長 (元気のいい学生だと好感を抱く) わが社は、北海道内でも有名

な超一流の印刷会社であるからして、(威張る口調で) 仕事については言葉づかい、文章作成など国語の力量を必要とします。(課長へ耳打ちする)

課長 私、人事課課長です。これより簡単な漢字を書いてもらいます。

ホワイトボードの前に立ってください。

— はい！ と学生は大きな声で返事をしてから立ち上がり、ホワイトボードの前へスキップして進みマーカーを手に持つ。

社長 挨拶は申し分なし。(小声で独り言を口にし、手元の採点用紙

の第一印象の欄に満点を付ける)

課長 道北にある稚内市を書いてください。

学生 (ホワイトボードに向かい、輪内市、と書く)

課長 では、道東にある網走市を書いてください。

学生 (網尻、と書く)

(一六)

社長 (課長に耳打ちする) こりゃあ、ひどいね。(手で口を押さえ、

笑いをこらえる)

課長 (おもわず、クツクツクツと笑い声を漏らす) んんっ。じゃあ、

小樽と書いてください。

学生 (尾足る、と書く)

社長 (笑い声が出そうになる口を押さえて我慢し) こうだよ。(と

言って採点表の余白に) 大田留(と書く)

課長 (社長を張り飛ばす) んんっ。じゃあ、ねえ、釧路は。

学生 (九白、と書く)

社長 (課長に小声で耳打ちする) この学生、バカだねえ。(笑い) クツクツクツ。

課長 (小声で) 笹ささのようなバカ者ですよ。(笑) ヒッヒッヒッ。

社長 (真剣な目をして課長に耳打ちする) 笹ささって、どういう意味？

課長 (ずっこける。小声で) 救いようのないバカってことですよ。(正面を見て) それでは次の漢字を書いてください。風邪薬が効く

のキク。

学生 はい！ (聞く、と書く)

課長 音楽を聴くのキク。

学生 (菊、と書く)

社長 (だれた姿勢で、課長に耳打ちする)

課長 (うなずき) では、椅子に座ってください。最後に、ことわざ

を答えてください。

学生 (背筋をピンと伸ばし) はい！

課長 犬も歩けば。

学生 電柱を見つめる。

課長 猫に。

学生 キャットフード。
社長 (課長へカツオ節だよね〜)
課長 (もう呆れたという声で) 暖簾に〜。
学生 大将の顔。
社長 (笑いをこらえ、課長にもう止めよお、と耳打ちする。採点表の学力欄に○点と記入する)
課長 (でつれとした姿勢で) はい。これで試験は終了いたしました。
学生 はい!
課長 (社長に目配せする)
社長 (学生を見て) どうですかあ。ご自分ではどれくらい正解できたとおもいますかあ〜。
学生 はい! 全問正解できた、と確信しております。はい!!
社長 (課長の耳へ、小声で) バカだね。自分のバカさを知らないよ〜。クッククック。
課長 (手で口を押さえ、低く笑う) ヒッヒッヒッ。(社長に耳打ちする)
社長 (笑いをこらえ) 残念ですが、超一流のわが社では採用できません。(課長の耳へ) 俺、言っちゃたよ〜。
学生 (平然と) はい! 何かアドバイスをいただけませんか?
課長 (社長を見て) アドバイス、ですかあ?
社長 (課長がしゃべるのを制止して) んんっ。次に失敗しないためのいい心がけですなあ。じゃあ、私からアドバイスします。あなたはピン芸人になれるかもしれないね。芸名は「脳足リンのアタマ」でどうでしょう?(課長の耳へ) 俺、また言っちゃたよ〜。
学生 はい! ありがとうございます。
課長 もう退席してもいいですよ。

学生 はい!(立ち上がろうとしない)
課長 (怒った声で、面倒臭さそうに) だから君、もういいから帰きなさいよ。試験は終わって、君は不採用だから。もう来なくていいから。
学生 はい!
課長 (語気を強めて、手で払うように) もう、さっさと退席してよ。次の応募者が……。 (と、言って止める)
学生 はい!
社長 (怒って) 君! 帰りなさい!
学生 はい!
社長 (立ち上がり、人差し指をさして) 君! なぜ、帰らないの??
学生 はい! 「私は、人生、どんな場面でも諦めずに粘り強くやり通したい」と思います。そうすれば、「道は開ける」と思います。
社長と課長 (大きくずっこけて) よ〜く、覚えていたねえ〜。君は合格です!。
学生 (Vサインをして、飛び跳ねながら) やった! やった!
(了)

